

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月19日

事業所名 下呂市さくらんぼ教室（4事業所）

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4/4		・不必要な玩具の移動等を行いながらスペース確保を行っている。 ・プレイルームの他に小さい部屋も使用できる。	・遊具の配置を工夫し、動線やスペースを確保していく。 ・遊具の配置を工夫し動線やスペースを確保している。
	2 職員の配置数は適切である	4/4		・子どもの人数、様子に合わせて考えている。 ・子どもひとりひとりに充分に関われる配置にしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2/4	2/4	・視覚情報が入りやすい子には壁面を外すなど環境作りを大切にしている。 ・静と動の活動を区切るためパーテーションを使用している。 ・玩具などの整理に絵や写真でわかりやすくし、ぱっと見てどんな物がどこに配置されているかわかるようにしている。 ・危険に繋がらないように考えて配置している。 ・必要な場合には手を貸したり、抱き上げ移動等を行うようにしている。	・小さな別室は玩具などが多くあるため、危険のないよう整頓し、床に物を放置しないようにしている。 ・来室経路はバリアフリーではない為必要に応じてスロープの設置を行う。 ・戸外からは階段でしか室内に入れないが、スロープ等の設置が難しい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4/4		・換気や掃除を行い環境整備を行っている。 ・掲示物も見やすいようにしている。 ・日頃から整理整頓に心掛けている。 ・広い空間を準備し、遊具で体を動かしたり、好きなあそびが楽しめるようにしている。 ・必要に応じて、消毒や検温などを行っている。	・部屋の環境整備は毎日行い、安全面や使いやすさに留意していく。 ・引き続き、感染症など必要に応じて、消毒や検温などを行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4/4		・指導する前には、ねらいを立てて指導を行い終わった時には職員間で話合う機会を設けている。 ・指導方法の見直しや会議を定期的に行い意見交流し、共通理解に努めている。 ・常に個々の療育に関する事、支援全体の事を話し合っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4/4		・続けて評価等を実施し改善に努め結果の公表を行っていく。 ・評価の結果を職員で確認し、保護者にも配布している。 ・保護者からの評価・意見を職員全員が把握し、話し合っ改善につなげている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4/4		・続けて自己評価を実施し、改善に努め結果の公表を行っていく。 ・自己評価や保護者の評価は、保護者に通知すると共に、各子ども園、さくらんぼ教室に掲示してあり、誰もが見れるようにしている。また下呂市のホームページでも公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4/4		第三者評価の内容については改善するように努めている。	・子ども園に第三者による外部評価で教育・保育と児童発達支援事業が連携し支援を行っている事を評価してもらっている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4/4		・公開療育を行い、市内のさくらんぼ職員での勉強会を行っている。 ・療育・保育に関する研修会に積極的に参加している。 ・研修の情報を共有し、できる範囲で研修に参加している。 ・子ども園の園内研修等にも参加している。	・今後も研修等に参加し、質の向上に繋げていく。
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4/4		・保護者とのアセスメントと共に担任との連携を持ち集団生活での困りも踏まえ支援計画を立てている。 ・未就園児に関しては保健師と連携を取り、支援計画の作成を行っている。 ・必ず保護者の話を聞き、子どもと保護者の思いを大切にしながら、できる手立てや支援方法を考えている。子どもの得意なところを見つけ、そこから苦手なところを引き上げていくよう計画に組み合わせている。		

適切な支援の提供

11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・他のさくらんぼ教室と合わせたものを使用している。 ・アセスメントシートに合わせて聞き取りをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善が必要な時は、他のさくらんぼ教室と連携し改善を行っていく。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・他のさくらんぼ教室と合わせたものを使用している。 ・長期、短期目標を立てそこから5領域に分けて個別支援計画を立てている。また、日頃の指導で細かく支援できるように支援目標のチェックシートも活用して確認している。 ・支援計画は具体的なものとなるように心掛け、保護者にはより具体的に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善が必要となった時は、他のさくらんぼ教室と連携し改善を行っていく。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・確認を行いながら行っている。 ・計画に沿った支援とともに、指導で見つけた新たな課題に対する支援も行っている。 ・支援計画は職員皆で共有し、その時にあった支援ができるよう、児に寄り添い支援している。指導のねらいも支援計画に沿って立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の確認や変更も行っていく。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を交えながら一人ひとりにあったプログラムの立案を行っている。 ・指導後の話し合いを設けその子に合った課題を考えて支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達に応じて内容を見直し、様々な経験ができるようにしていく。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・週事に見直し改善、工夫を行っている。 ・季節や行事などに合わせて、その子ができる方法を考えて指導を行っている。 ・個々に合った活動内容にしている。前回の活動内容を知り、その上での支援を考えている。 	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢にとらわれず、個々の発達や様子で個別、集団を見極めて取り入れている。 ・個別に合った活動を考え定期的に集団活動も行っている ・子どもの発達段階を踏まえて、個々に支援計画を作成している。園の集団生活の様子もふまえて、集団活動の内容を考えている 	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担・内容確認・子どもの朝の様子を踏まえ確認作業を行っている。 ・開始前にその日の子どもの確認をしたり、前回のことも踏まえながらねらいを立てたりするなど、職員間で話し合う場を大切にしている。 	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後にすぐに話し合いを設け、課題だけでなく成長したことも伝え共通理解を心がけている ・職員全員で子どもの姿を振り返り、職員の気づき、意見や考えなどを聞き、共有し、次の支援に繋げていけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の時間の都合で十分にできない時は、空いている時間の活用方法を考えたい。 ・時間を有効に使ったり工夫したりしたい。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらい、反省と共に、他の保育士の記録を読み話し合うことにより支援の検証・改善につなげている。見た人がわかるように記録を書くことを心がけている。 ・記録に残す事で療育を振り返り、次の指導に活かしている。 ・エピソードなどで一連の様子が分かるような記録もとり、考察なども記入している。 	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回は定期的に面談を行い、子どもの様子を見て必要であれば支援計画の見直しを行っている。 ・保護者に様子を聞いたり担任と連携をとり合って見直しの必要な時は行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ支援計画の確認や変更も行っていく。振り返りの時間を元に支援計画の見直しについても意見を交わし合う。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4/4	・児童発達支援管理責任者が参加し情報を共有している。 ・担当者から内容の報告を受けている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4/4	・子育て支援センターが併設されているため、常に情報交換ができる。 ・あそびのひろばを通して保健師との情報交換が月に一度行っている。また必要に応じていつでも連絡が取れている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4/4	・乳幼児健診(1.6カ月・2歳・3歳)に出向き情報を共有している。 ・教育支援委員会や國小連携会議に参加し連携をとり合っている。 ・子どもを取り巻く関係機関と連携を取りあつて情報を得ている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4/4	・保護者の了承を得て、ST,OT,PTと連携会議を行っている。リハビリ見学や医療関係者と連携を取り合っている。 ・必要に応じていつでも連絡が取れるようになっている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4/4	・未就園児が入園する時等保護者の同意を得て情報を共有し支援を行うようにしている。 ・こども園に併設しているため、園の様子を見学したり、担任に療育の様子を見学してもらって共通意識で関わるようにしている。 ・事業所での活動ノートを担当にも読んでもらい保護者、こども園、事業所の3者で共有している。 ・情報共有、相互理解を持つようにしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4/4	・こども園の様子を見学してもらったり保護者と各学校の訪問を行いスムーズに移行支援が行えるように情報の共有を行っている。 ・こども園、さくらんぼ教室、小学校との連携会議を行っている。 ・飛騨圏域の会議や研修にも参加している。 ・情報共有、相互理解を持つようにしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4/4	・市内さくらんぼ教室公開療育や研修会に参加している。 ・飛騨圏域の会議や研修にも参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4/4	・こども園併設の連携は取れている。 ・併設しているこども園が統合保育を行っているため、毎日交流して集団生活の中で関わりを持っている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4/4	・参加をして情報を得ている。 ・代表者が参加しているものは報告を受けている。	・保健師・支援センター・こども園園長(主任)等で支援会議を行っている。地域の子育て会議等はある地区とない地区がある。それに関する会議等要請があれば積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4/4	・送迎時や連絡ノートにて細かく子どもの様子や支援方法を伝えるようにしている。 ・必要であれば連絡を取って情報を交換している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4/4	・職員が受けたペアトレの研修を通信として配布した。 ・個別での情報提供を行った。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4/4	・入室時の面談の時に丁寧に伝えている ・入室前に、一度必ず保護者の相談を受け、その時に丁寧に話をしてから入室の手続きをしてもらうようにしている。	・入室時以外にも説明の機会を設けていきたい。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4/4	・集団での様子を担当と連携しあい、児童発達支援計画作成、実施を説明している。 ・支援内容を紙面で提示しながら口頭で丁寧に説明し、同意を得ている。		

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、いつでも相談を受けている。 ・相談を受けた時は懇談の時間を設けたり、電話での対応も行っている。 ・日頃から保護者の方とコミュニケーションを図り、相談しやすい雰囲気作りに努めている。 	・支援センター等に出向き、気軽に相談ができるようにしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・かたつむりの会のお知らせをした。 ・さくらんぼの集いを4回計画し、多くの方に参加していただいた。(1回は天候により中止) ・保護者同士で話をするきっかけになった。 	・さくらんぼの集い等を行っている。積極的な参加を呼びかけていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・相談があったときは時間を空けず懇談を行っている。 ・相談して下さったことに対して、誠意をもって対応している。関係機関にも話を聞くなどし、一番適切な対応を心がけている。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回を目安に、通信を出している。活動内容や子育てのポイントなどをお知らせした。 ・外国籍の方など皆さんに読んでいただけるようフリガナや短文などで分かりやすく作成した。 	・引き続き行事予定等と共に様子も合わせて発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・目に触れるところに個人情報に繋がるものを置かない、掲示しない、鍵をかける等を行っている。 ・守秘義務を厳守している。 	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りのほかに個別に詳細を伝えるようにしている。 ・子ども、保護者に合わせて写真や絵を使ったり読み仮名を振ったりして伝え方を工夫している。 	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を招待することはないが、こちらから地域に出向く活動を計画している 	・こども園に通っているお子さんの利用がほとんどであるため、このような行事は行っていない。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年4月の職員会でマニュアルの確認をしている。 ・マニュアル、訓練共にわかばこども園に準じて行っている。 ・入室時に保護者に周知し、毎月のお便りでお知らせをしている。 	・こども園の訓練時に一緒に参加している。各訓練や感染症対策等保護者の方へ周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園と連携し同時に訓練を実施している。 	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・入室や面談時に確認し把握している。 	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園と連携しアレルギーの対応を共有している。 	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園と連携し同じ様式で記入している。 ・常に「～かもしれない」という思いで関わりその都度声をかけ、起きた時には原因を追及し次に起こさないよう共通理解を持つようになっている。 	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の虐待研修をオンラインで受けた。 ・こども園の虐待研修に参加した。 ・月1回のチェックシートで振り返り、職員間で確認し合っている。 	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ・該当者なし ・この様な状況は現在ないが、研修で学んだ事から説明が必要である認識はある。 	・対象者がいる場合には、保護者や関係機関と連携を取り合い行っていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。